

(様式1)

自己評価票

作成日 平成24年 9月15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873900542		
法人名	医療法人 正信会		
事業所名	グループホームさくら	ユニット名	東棟
所在地	〒 315-0122 茨城県石岡市東成井2219-8		
自己評価作成日	平成24年 9月15日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>バランスの取れた食事と利用者の方や外部の方からもおいしいと絶賛された味付けが自慢。 季節事の行事（イチゴ狩りなど）や年間行事のボランティアの方と一緒に歌や踊り。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「さくらの理念3ヶ条」は、各棟見える所に掲示し常に心掛けるように努めている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として行事ごとに地域の方に参加の呼びかけをしたり、また地域の中学生の職場体験の受け入れをし、利用者と共に過ごせる時間を設けたりしている。また敬老会に少人数ではあるが参加をしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議などを利用して地域代表の方々に認知症の人の理解や支援をして頂ける様に活動している。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回を計画、実施している。その都度事業所報告、意見交換をしてさくらの現状を理解して頂いている。また民生委員の方からの報告で地域の独居老人の方など把握し、何かあった時には受け入れ、協力できるように心掛けている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者（介護保険課、高齢福祉課、包括支援センターなど）の方とは来訪、電話などで協力関係を築いている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケア、身体拘束がもたらす弊害、「緊急やむを得ない」場合に行う身体拘束については研修し厳密に検討している。それでも「緊急やむを得ない」身体拘束を行う時は家族との話し合いを設け同意書を頂くようにしている。現時点では身体拘束をしている利用者はいない。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関してはすべてのスタッフが研修を受けている。また虐待防止マニュアルに基づき常に心に刻みながら利用者の人権および尊厳を守る為に介護に力を入れている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については研修は行っている。家族には入所時に契約書を説明する際（契約書第11条、第12条）と一緒に説明させて頂いている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が家族に契約書を十分に説明し、家族からの希望、意見または質問等を良く聞いた上で、契約を交わすように心掛けている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には現在の利用者の状態を説明し、また家族の要望を聞くようにしている。玄関前にはアンケート用紙も用意し無記名で投票できるようにしている。それを運営推進会議やミーティングに話し合うようにしている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時にスタッフ間で意見や提案を聞く機会を設け、積極的に意見交換している。また管理者は個人的にスタッフと個別面接を行い意見や相談を聞くようにしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件など職員個々の意見が反映されており、やりがいがある環境を与えている事でスタッフが向上心を持って努められていると思われる。それが今のスタッフの勤務継続に繋がっている。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は参加可能な限りはスタッフに参加出来るように配慮している。ホーム内ではマニュアルを基に研修を行っている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	23年度より石岡市地域密着型介護サービス事業所協議会が設立され、年4回の会議に参加し交流を行っている。4回の会議の中には、講習、スタッフ育成研修、実体験談などがあり参加する事でサービスの質の向上をさせていく向上に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入所された方に対しては、本人、家族から要望や希望を聞き、安心して生活出来るように支援している。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方の思いや要望を聞き、本人だけでなく家族の方も安心出来るような支援を心掛けている。そこから信頼関係が築ける様に努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の方と密に話し合う事で、今何を必要としているのかを見極め、利用者の方に負担がかからないように出来る限りの支援を行っている。また利用者の方の介護度により、周りの環境や他利用者とのコミュニケーションが取りにくい事もあるので、スタッフが一日でも早く馴染めるお手伝いをする。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの思いが異なるのでその人に合った対応を心掛け、なるべく一人ひとりと話をしたり、散歩をしたり家族のような信頼関係に努めている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が面会に来た際は今の現状を報告すると共に家族の思いも聞くようにしている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	東棟には介護度の高い方や認知度の高い方、また地域密着前に入所された他県の方が多く馴染みの方に連絡を取ったり、場所に出かけたりする事が難しい為家族に協力して頂ける様に支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の棟の方と仲の良い方はそちらに行き将棋をしたり、散歩時には歩行困難な方の車椅子を押しして頂いたりして、なるべく一人にならないように配慮している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もたびたび電話を頂いている。つい最近は「無事に3回忌が終わりました。」と連絡が入り家族の皆様は元気だとの話をされていました。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いが異なるので、その人に合った生活を自由に過ごして頂いている。その中でコミュニケーションも大事なので午前の水分補給後と午後のおやつの後には、歌を唄ったり体操をしたりする支援を行っている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの生活歴や介護サマリーからその方の暮らしを理解するように努めている。また一人ひとり育った環境も異なるので焦らずにゆっくりとその方の生活が分かるように努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ほとんどの利用者の方が一日の流れが理解出来ない為食事やレクリエーションは時間を決めて行っている。心身状態はその都度（季節変わりなど）状態を把握し対応している。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族とスタッフで話し合いを行い本人が出来る範囲内で介護計画を作成している。また日々の変化を踏まえながら、3ヶ月に1回のモニタリングを行っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護日誌や個別のケース記録を記入している。その記録をスタッフが共有化する事で利用者の変化や介護計画の見直しに活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に生じた問題点はスタッフ間で話し合いながら、随時家族には報告し、プランの変更があれば、敏速に対応している。またその際に他サービスが必要な場合は対応できるような支援を心掛けている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間行事のボランティアの方の来訪、年2回の消防訓練時の消防署職員に来訪して頂き安全指導をして頂いている。また2ヶ月に1回の地域の理容室の方の散髪など暮らしを楽しむ事が出来るように支援している。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医院については、利用者家族と話し合いのもと決定している。ただしほとんどの利用者の方が母体である病院を希望され24時間体制で適切な医療を受けている他病院での受診を希望される場合は、家族の協力をお願いしている。どうしても家族が対応できない場合はスタッフが対応する事もある
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態や身体的変化、異常時は常に母体である病院の看護師より指示を仰げる体制は出来ている。また一週間に一度の訪問看護師の来訪時やケアマネージャーが看護師な為その際には利用者の状態を直ぐに報告出来る体制になっている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院な為管理者は常に病院との連携は図っているので、より良い関係作りは出来ている。その為入院中の利用者の状態も常に把握でき、早期に退院出来るように努めている
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的に母体が病院ということもあり、看取りは行わない方針である。ただ家族からの要望で出来るだけさくらで過ごさせてほしいとの話があった場合は担当医と連携を図り出来るだけのケアを行うように支援している。その際は家族との話し合いのもと同意書にサインを頂いている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急、急変時対応マニュアルを参考にスタッフは常に対応できるように心掛けている。同業施設が行っている研修や講習の中に、消防署で行う普通救命講習があり、何人かのスタッフはその講習に参加させて頂き終了証を取得している。今年も参加を予定している。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、その後反省会を含め次回の訓練に役立てる様に努めている。また昨年の震災時近隣の方の協力を頂き、今以上に信頼関係が築ける様になった。市役所からの依頼もあり備蓄リストを作り、災害対策に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは一人ひとりの人格を尊重した上で利用者に対しての対応には充分気を配り、特に言葉遣いには（強い口調）注意を注ぐように努めている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係を築く事で利用者が何でも話せる環境づくりを心掛けている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な事は一日の流れの中で過ごしてしまっているが、本人の希望で居室で休んだり歩行練習をしたりしている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの利用者が自分で洋服を選ぶことが出来ないので、スタッフがその方の表情や似合う洋服を選ぶように支援している。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一日のメニューは母体の病院の栄養管理士が行っているが、希望があればお楽しみメニューとして利用者の方の意見を聞き変更しているまた嫌いな物は代替えして食べて頂いている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは栄養管理士がいるのでカロリー計算は出来ている。食事量や水分量は個人差があるのでチェック表を参考に、その方に合った量や形態で出すように支援している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいをしている。夕食後は歯ブラシで歯磨きを行った後で緑茶で殺菌効果また風邪予防対策も行っている。入れ歯使用の方は入れ歯洗浄剤に入れて翌朝までお預かりする。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意、便意が分からない方は時間による介助を行っている。立位が可能な限るおむつ対応にはせずにリハビリパンツを使用しトイレでの介助を心掛けている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行練習、水分補給、体操、腹部マッサージなどの工夫をしている。それでも便秘がちな方は医師の指示のもと下剤を処方して頂く。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	各棟で毎日入浴を行っているので、本人が入りたい希望があればいつでも入浴できる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望で日中でも休んでいたい方は居室で休んで頂いている。安眠を考えマットレスを持参している方もいる。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは利用者一人ひとりの薬の用途、用量は理解している。服用に関してはすべての利用者にスタッフが口入れ介助し確実に飲んだか確認している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力を考え、タオルをたたんで頂いたり、スタッフと一緒に食材運びのお手伝いをして頂いている。食べ馴染んだ嗜好品を居室で食べている方もいる。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添った外出はできないが、季節に応じた苺狩りや中華園への外食などの支援を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人が所持している方は欲しいものがあればスタッフが頼まれ買いに行くように支援している。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>廊下には公衆電話が設置してあり、自由に掛ける事が出来るようになっているが、本人自ら電話を掛けられる方や希望する方はいない</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間である居間からは中庭が見え、草花が多く植えられてあり季節感を感じる事ができる。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間の片隅には畳の空間があり、自由に寛げるようになっている。昼休みなど畳で休みたい方はそこで昼寝をしている。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は個室な為自由に自分の好みに合わせて持ち込む事が出来るように支援している。使いたれた掛布団や安心出来るように縫いぐるみなどを持参してる方もいる。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部のトイレや居室にはすぐに分かるように目印を付けている。座位が傾いてしまう方には椅子にもひじ掛けを取り付け転倒しないように工夫している。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが ○ 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない